

3 2. 令和 5 年度 沖縄てんかん拠点病院事業報告書

(2023 年 4 月～2024 年 3 月)

報告者：沖縄赤十字病院脳神経外科部長 沖縄てんかん拠点病院責任者 廣中 浩平
文責：沖縄てんかん拠点病院てんかんコーディネーター 饒波 正博

活動報告

令和 5 年 4 月 1 日より脳神経外科医（てんかん専門医）1 名が退職のため減員となり、当院のてんかん専門医は 2 名となった（脳神経外科 1 名、小児科医 1 名）。これに対しててんかんコーディネーターは 2 名のうちの 1 人、薬剤師兼務が令和 5 年 6 月に退職したが、同年 4 月から医師兼務 1 名がコーディネーターに任命され、現職の理学療法士兼務と併せ 2 名体制は維持できている。これは、4 月に退職した脳神経外科医が他施設に所属しながらてんかんコーディネーターとして協力したことによっている。両コーディネーターの役割分担は、医師兼務が拠点病院事業を企画し、理学療法士兼務がその実務を担当するとしている。なお、てんかんコーディネーターには病院事務部の課長がサポーターとして付くことになっている。

令和 5 年 5 月に新型コロナウイルス感染症の法律上の位置づけが 5 類へ引き下げられたことを受け、社会の動きは再び活発になっている。縮小していたてんかん拠点病院の対外事業も感染拡大前に戻した。すなわち年 2 回のてんかん協議会はネットで開催し、年 2 回のてんかん県民講話は対面で開催した。月 1 回の脳波カンファレンスも継続している。これは公開ではあるが、さらに広く参加者を募るためインターネットを活用した対面＋ネットのハイブリット開催をめざしたが実現はしていない。

特筆すべきは、大麻抽出製剤カンナビジオールの全国治験、令和 5 年厚生労働省障害者総合福祉推進事業「てんかん診療拠点病院等における心因性非てんかん性発作等の実態把握（指定課題 23）」に参加したことである。地域医療を担いながら、全国組織としててんかん拠点病院の役割も果たした。

1) てんかん診療

脳神経外科医の退職のためスタッフは 1 減となったが、数の上ではほぼ例年通りの診療内容になった。問題はビデオ脳波がここ数年伸び悩んでいる事である。年間 50 例を目標に、今年は脳波計を 1 台購入して臨んだのだが、例年並みの件数に終わってしまった。どこが件数増加のボトルネックになっているのか、一度ビデオ脳波検査に至る流れを精査する必要があると考えている。手術件数は減っているが、そもそも去年の件数は迷走神経刺激装置の電池交換術で水増しされていただけなので、むしろ今年の方が充実したてんかん手術を行い得た。

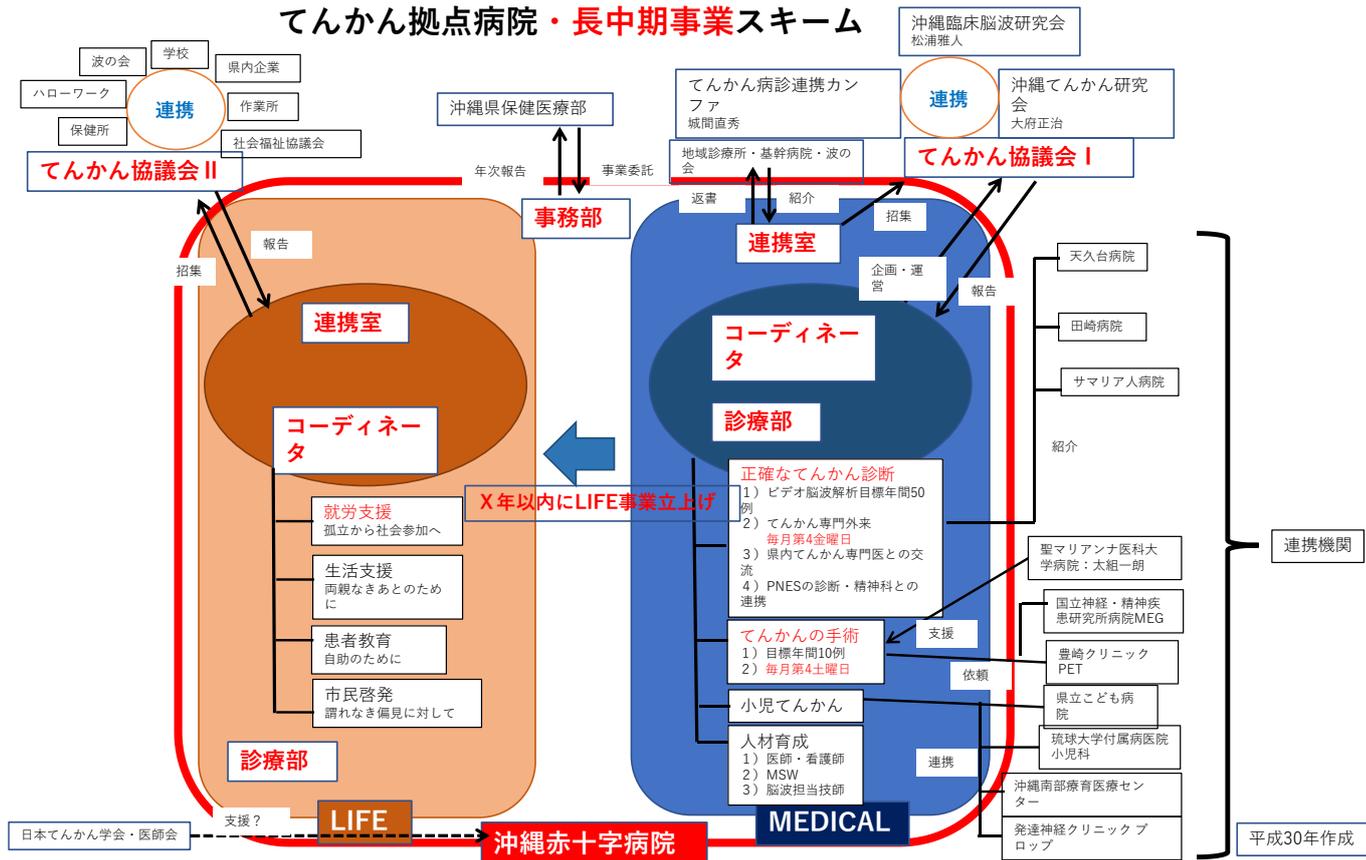
2023年（令和5年） 沖縄てんかん拠点病院診療実績（1月～12月）	
てんかん外来	診療総数2147(2365), 診療患者数534(584)
新紹介患者	96(82)
てんかん相談	96 (110)
入院	61 (75)
ビデオ脳波	22 (23)
てんかんの手術	12 (17)
選択的海馬扁桃体切除術	5 (1)
側頭葉切除術	0 (0)
脳梁離断術	2 (4)
迷走神経刺激装置設置術	2 (2)
迷走神経刺激装置電池交換	3 (8)
頭蓋内電極設置術	0 (1)
頭蓋内電極除去術	0 (1)

カッコ内数字は2022年実績

2) てんかん患者生活支援

まず平成30年（拠点病院開設時）に作成した、てんかん拠点病院の中長期事業スキームを以下に示す。

てんかん拠点病院・長中期事業スキーム



細かい部分は修正が必要になっているがこの事業スキームでは、医療（MEDICAL）事業をまず立ち上げ、「X年以内に LIFE 事業立ち上げ」と明記され、生活支援（LIFE）事業では、新たな協議会、てんかん協議会 II を立ち上げることになっている。昨年度はこの事業の準備のために、「病気や障害を持ちながら日々生活している方々を支援していく」をコンセプトにラジオ番組を制作し放送した。この過程で、ピアサポートという支援方法に触れることになった。ピアサポートは仲間同士の支援であり、そこに支援-被支援の関係はなく、当事者自身の内なる力の発見に繋がる。究極の支援は、手を引き尻を押すことではなく、自身の力で課題を解決できるように患者やその家族をエンパワーメントすることである。このことに思いが至り、我々の生活支援（LIFE）事業に「ピアサポート」の手法を取り入れることにした。今年度の県民講話はこの構想をもとに組み立てられた。具体的な目標は患者が運営する患者会を立ち上げる事である。

3) 地域連携・啓発活動

てんかん県民講話

第1回：令和5年11月12日；挑戦は続く、まず手術そして次のステージは地域連携

式次第

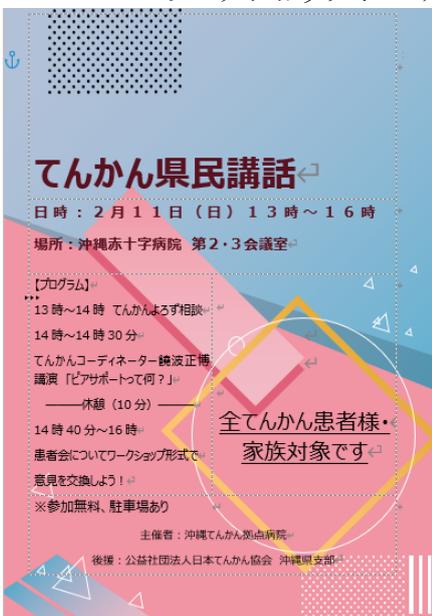
- 1) 13時~14時 よろず相談会（患者各自、てんかん協会、医師・関係者）
- 2) 14時~講演：てんかん地域連携について
 - ・「てんかんを持つ方の地域連携について」天久台病院 公認心理士 岸本百合
 - ・「私の考えるてんかん拠点病院と地域連携」沖縄赤十字病院てんかんコーディネーター照屋江里



第2回：令和6年2月11日；ピアサポートって何？

式次第

- 1) 13時～14時 よろず相談会（患者各自、てんかん協会、医師・関係者）
- 2) 14時～14時30分：講演
 - ・「ピアサポートって何？」沖縄赤十字病院てんかんコーディネーター 饒波正博
- 3) 14時40分～16時
 - ・ワークショップ：「ピアサポートに期待すること、不安なこと」



ワークショップの様子（→目標は患者が運営する患者会を立ち上げる事）

- ・脳波カンファランス（日時；毎月第4月曜日 18時より、場所；沖縄赤十字病院第2会議室）
指導：松浦雅人先生（田崎病院）
内容：松浦先生による脳波についてのミニレクチャーに続き、外来での脳波をメインに解析する。
仕様：参加予約の必要なし。対面のみ、ネット配信は検討中。

3) てんかん協議会について

- ・年2回開催（9月、3月予定）
- ・2023年度も会議はネットで開催
- ・協議会メンバーは以下

てんかん協議会構成員 17人

1. 石内 勝吾 琉球大学病院 脳神経外科教授
2. 林 明子 日本てんかん協会 沖縄県支部事務局代表
3. 嘉手川 淳 沖縄赤十字病院 脳神経内科 部長
4. 和氣 亨 沖縄県立八重山病院 院長
5. 城間 直秀 発達神経クリニック・プロップ 院長
6. 平良 直樹 医療法人 天仁会 天久台病院 理事長
7. 竹井 太 うむやすみゃあす・ん診療所 院長、宮古地区医師会長
8. 太組 一郎 聖マリアンナ医科大学病院 脳神経外科教授 てんかんセンター 副部長
9. 仲村 卓郎 琉球大学病院 小児科
10. 饒波 正博 平安病院
11. 比嘉 秀正 ちばなクリニック 神経内科
12. 近藤 毅 琉球大学病院 精神科教授
13. 松浦 雅人 田崎病院 精神科
14. 宮川 治 沖縄県立総合精神保健福祉センター所長/沖縄県保健所長会長
15. 新里 逸子 沖縄県保健医療部地域保健課長
16. 比屋根 真彦 沖縄赤十字病院 小児科
17. 廣中 浩平 沖縄赤十字病院 脳神経外科部長